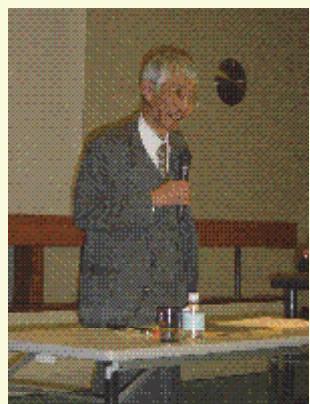


## 循環型社会への模索－われわれはどこからきてどこへいくのか－

報告 石橋憲明・吉川克彦

平成14年11月29日(金)、第13回研究発表会開催中の国立京都国際会館において、廃棄物学会関西支部設立総会及び支部設立記念講演が行われました。

支部設立総会では、まず、澤地實支部顧問から、関西地区連絡会の活動から支部設立に至るまでの経過報告が行われた後、支部長による挨拶、規約報告、役員紹介が行われ、続いて、山本攻支部幹事長から平成14年度事業計画が報告されました。最後に高月紘学会長から、「市民の参加、地域に密着した活動により、全国の活動が活性化することを期待する」旨の祝辞を頂きました。



設立記念講演は、武田信生支部長から、京都大学大学院教授とともに真宗大谷派西廣寺住職という立場で「循環型社会への模索－われわれはどこからきてどこへいくのか－」と題して行われた。仏教の教えやキリスト教の世界観等を紹介しながら、「見えないところで膨大なエネルギーが使われていることを知ること、太陽エネルギーが環境修復・循環を支えている半開放システムに生きていくこと、便利さと引き換えに失った鎮守の社や水車のある原風景を取り戻すことの必要性」をわかりやすく訴えられました。



研究発表会開催中であったこともあり、関西支部会員以外の参加も多く、約120人の聴衆が熱心に聞き入り、関西支部の新たな船出にふさわしい記念講演となりました。



※設立記念講演の要旨は[こちら](#)をご参照ください。

**循環型社会への模索 - われわれはどこからきてどこへいくのか -**  
**武田 信生 支部長（京都大学大学院教授・眞宗大谷派西廣寺住職）**

**廃棄物学会関西支部設立記念講演**

平成 14 年 11 月 29 日(金)

**要旨**

**宗教から見た廃棄物**

- ・「われわれはどこからきてどこへいくのか」の真宗での答えは「人は浄土からきて浄土へ帰る」であり、循環型社会と結びつけて考える必要がある。
- ・20世紀社会は便利さを与えてくれたが、水車のあるような原風景を失った。
- ・水車は実は太陽によって動いているということに気付いてほしい。
- ・我々はエネルギー資源に頼っているが、いつまでも安価に確保できる状況にはない。20世紀はエネルギーの集中消費、霸権エネルギーを可能にした。見えないところで膨大なエネルギーが使われていることを知る必要がある。
- ・現代は経済、環境、資源が三竦みの状態にあると言われるが、経済とは国を治め民を救済することが元々の意味であるから、経済と環境・資源が摩擦を起こすこと自体がおかしい。
- ・経の古い字体「經」はタテイト、道義、法則を意味する。仏教のお「經」も、道義が抜け落ちているとしっかりした人生は送れないということ教えている。
- ・従来は同時的価値観であったものが、通時的価値観に変わってきており、循環型社会の概念が出てきた。
- ・資源を地下から汲み上げるスピードと戻すスピードを同じにして、初めて循環型が成り立つ。それには太陽が必要である。
- ・江戸時代には循環型社会が成り立っていたが、環境施設の普及により伝染病等から身を守ってきたことも事実であり、現時点での循環を考えないといけない。
- ・ベーコン、デカルト、ニュートンに代表されるキリスト教世界の特徴は、自然を征服する概念である。
- ・一方、クラウジウスは、物質は利用可能なものから利用不可能なものへと変化するというエントロピー増大の法則を見い出した。
- ・大阪万博で、スカンジナビア館は「工業化社会における環境の保護」を提唱し、技術が人類にマイナスに働くこともあるということを警告していた。
- ・見えないものが見えるということが非常に大事なことである。それは、麦1トンを生産するのに1000トンの水が使われているとすれば、麦1トンを輸入するということはその輸出国の水を1000トン使用している、ということに気づくということである。
- ・環境としてどこまでを意識するか。二千数百年前の釈迦涅槃図では、弟子達人間だけでなく、動物も悲しんでいる。仏教は動物や植物の存在を非常によく知っていた宗教で、それが失われている現在社会は、悲しむべき状態である。
- ・水は循環資源であるが、ガソリンは枯渇する資源である。しかし、価格はガソリンの方が安く、

資源価値が逆転している。

- ・我々は、太陽エネルギーが環境修復・循環を支えている半開放システムに生きていくことを認識しなければならない。
- ・昔は鎮守の森で子供が遊ぶ社会があった。宗教教育、環境教育が必要でない社会が必要であり、鎮守の森をどうするのか等を大人が考えるべきである。
- ・私の好きな絵に小倉遊亀さんの1966年の「径」という作品がある。我々は、失ってしまったこのような風景、清潔感を取り戻すためにもがいている状況なのではないかと思う。